

## 仕事の進め方におけるチェックポイント

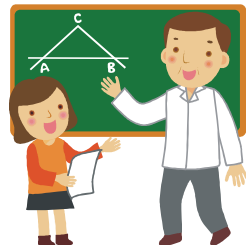
◇ 児童生徒と直接向き合う時間や教材研究の時間を確保するために、以下の項目を参考にして、各自の仕事の進め方を見直しましょう。

### One Point

朝、今日の業務の流れや優先順位を確認し、仕事のゴールを決めましょう。  
週・月・学期など中長期的な見通しをもち、同じ時期に業務が集中しないようにしましょう。

教材や会議資料等は自作にこだわらず、既存のものを有効に活用して作成時間の縮減を図りましょう。

学年通信や学級通信等を作成する際は、発行する頻度も考慮しましょう。



書類等の整理整頓や備品等の確実な返却を心掛け、必要なものを探す時間を最小限に抑えましょう。

一人では対応が難しい業務や課題については、周囲の助言や協力を得て、早めに解決しましょう。

1	「何を」「いつまでに」を明らかにしてから仕事に取りかかっていますか。
2	職員会議や学年会議等において、協議事項を明確にして短時間で提案していますか。
3	教職員に伝達事項があるときは、連絡黒板や電子メール等を利用していますか。
4	他の人が作成したものや共有データ等を有効に活用していますか。
5	資料や通知等は、趣旨や内容を考えて簡潔に作成していますか。
6	印刷する前に誤字・脱字等がないか確認したり、他の人に見てもらったりしていますか。
7	学校の備品や教材等を使用した後は、確実に保管場所に戻していますか。
8	机上や書類の整理整頓を定期的に行っていますか。
9	休息やリフレッシュの時間の確保を意識していますか。
10	不安や悩みがあるときは、早めに管理職や同僚等に相談していますか。

## 学校における取組のチェックポイント

◇ 業務の効率化を進めるために、以下の項目を参考にして、各校の状況に応じた具体的な取組内容を重点化・焦点化しましょう。

### One Point

「終了時刻の設定」「資料はワンペーパー」「協議内容の明確化」などのルールを設けて、会議の効率化を図りましょう。

共有フォルダにデータを保存するときは、作成日時や内容がわかるような名前を付けましょう。

今年度の担当者が反省や課題を年度内に修正し、次年度の負担を軽減しましょう。



共通理解のもと、身近で継続可能なことから実践していきましょう。  
取組の成果を全員で実感できるように、定期的に評価しましょう。

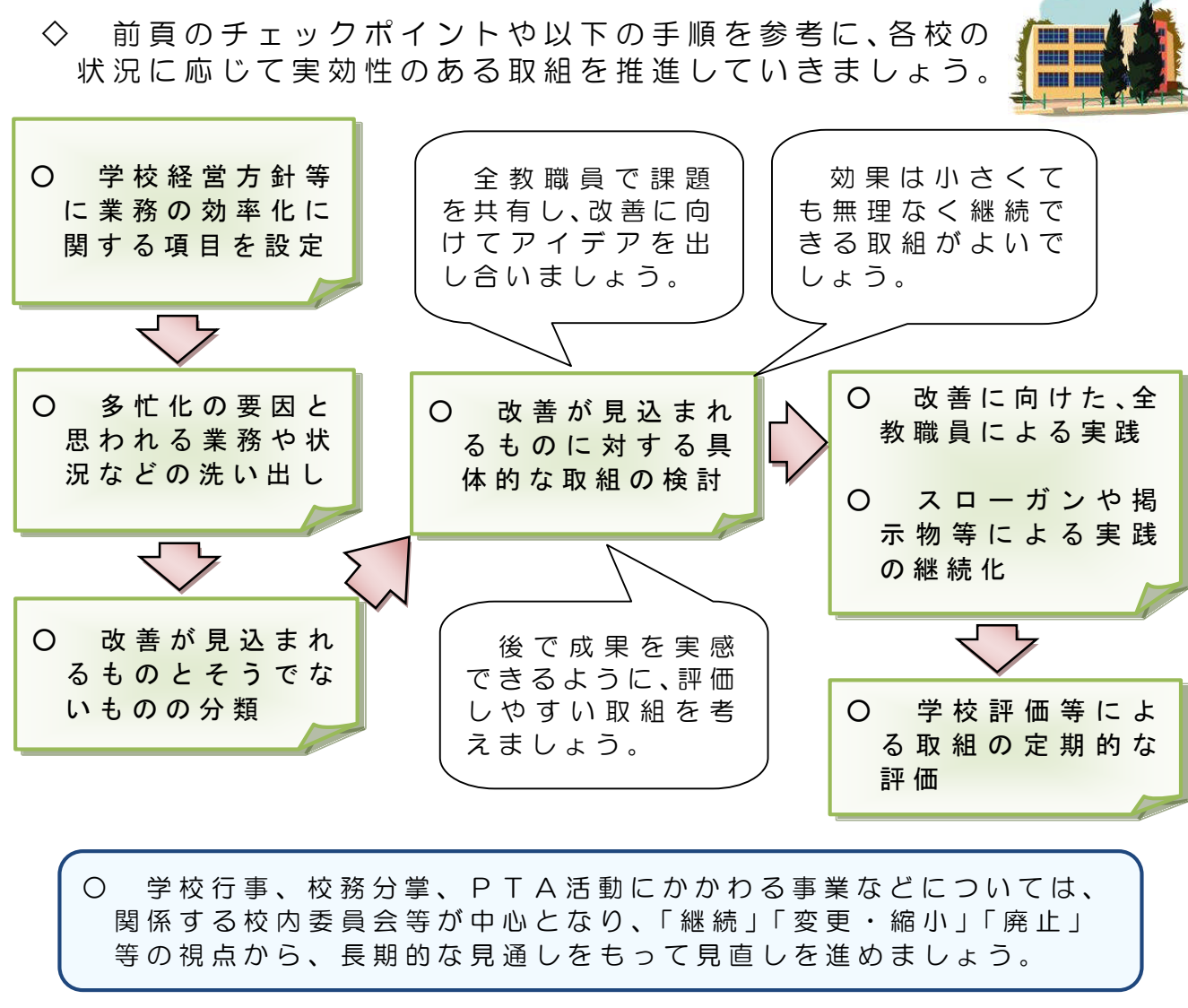
互いに声をかけ、困ったときには協力し合える職場環境をつくりましょう。

1	職員会議や校内委員会等の実施において、ルールやきまりが設けられていますか。
2	打合せ等において、連絡黒板や電子掲示板等が利用されていますか。
3	成績処理や児童生徒の情報管理等において、コンピュータが有効に活用されていますか。
4	校務分掌の業務内容について、マニュアル化やスケジュール化が図られていますか。
5	行事等の実施後はアンケート等により、速やかに反省や課題が取りまとめられていますか。
6	学年主任等が、関係する教職員の業務の進捗よく状況を把握し、適宜助言していますか。
7	学習指導や生徒指導等において、学年や校内委員会等の組織力が活かされていますか。
8	業務の効率化に向けて、全員で具体策を話し合ったり取組を評価したりする機会がありますか。
9	早めの帰宅を促すための呼びかけや「定時退勤デー」等の設定が行われていますか。
10	教職員同士が互いに手伝ったり、気軽に悩みや不安を話し合ったりできる雰囲気になっていますか。

### 各自における具体的な取組について

- 前頁のチェックポイントを参考に、より効率的な仕事の進め方に向けて具体的な取組を考え、継続的に実践しましょう。
- 個人の取組を明確にするために、校務分掌や役割を踏まえて行動目標を設定し、自己申告書等に記載することも方法として考えられます。  
(例) 学年主任→「週始めに今週取り組むべきことを学年教員に示し、仕事の見通しをもてるようにする。」
- 「どうせ～(仕事は減らない)」「そのくらいでは～(忙しさは解消しない)」と言わず、小さなこと・身近なことから取組を始めることが大切です。

### 学校における具体的な取組について



#### 【問い合わせ先】

群馬県教育委員会事務局  
学校人事課 管理係

電話 027-226-4606 (直通)

### <教職員の皆様へ>

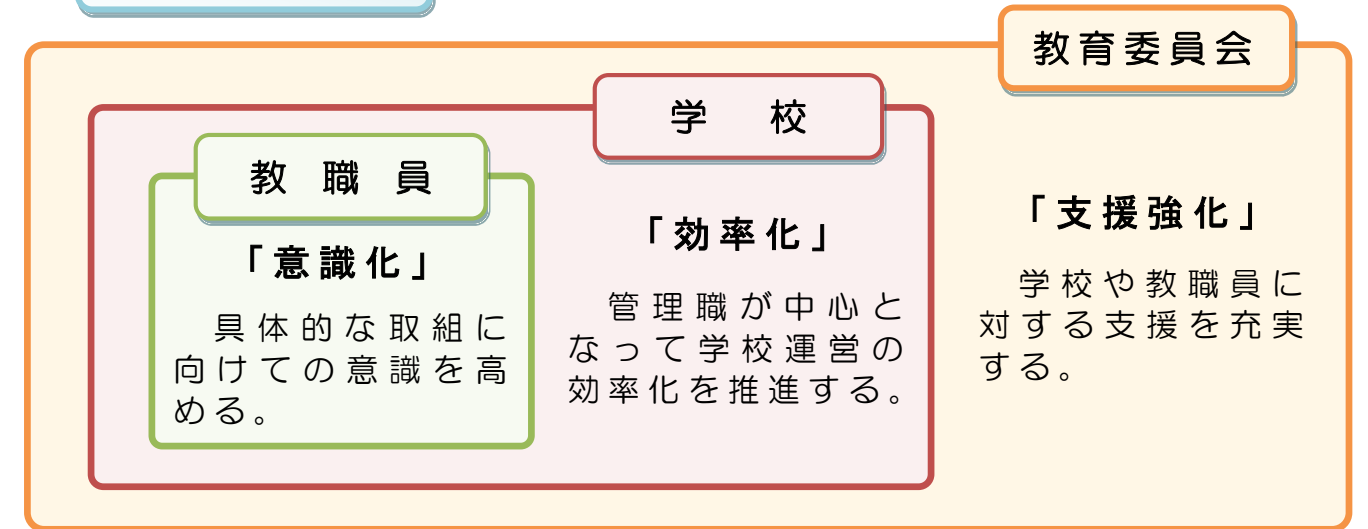
## 児童生徒と向き合える環境づくりに向けて

- ◇ 様々な業務を抱えて多忙な毎日ですが、児童生徒と直接かかわる時間を確保し、質の高い教育活動とやりがいのある職場環境づくりを進めてみませんか。

### <取組の方向性>

多忙化解消に向けて、教職員・学校・教育委員会がそれぞれの実態に即した取組を行い、教職員がやりがいをもって児童生徒と向き合える環境づくりを推進する。

### 取組の視点



- ◇ それぞれの立場において、次のような取組が考えられます。

#### 教職員

- 効率化を推進し、質の高い教育活動を行うために、勤務時間管理や健康管理への意識を高める。
- 各自の校務分掌や役割において効率化や適正化の視点から自身の仕事を見直し、具体的な実践を行う。

#### 学校

- 学校経営方針等に業務の効率化についての項目を設け、全教職員の共通理解を図る。
- 改善が見込まれる課題を絞り込むとともに、継続的に取り組めるようにスローガン等を設けるなど、学校としての具体的な実践を明確にする。

#### 教育委員会

- 各学校で業務の見直しや縮減等に積極的に取り組んでいけるよう、管理職研修会等において具体的な取組事例等を紹介する。
- 県教育委員会と各市町村教育委員会が連携し、引き続き会議・研修・調査照会等を定期的に見直ししていくとともに、学校が担うべき役割について整理していく。